



2011 年フルクテンバウムセミナー

聖書が教える救いとは

「救いの 10 の側面」

「33 の事項：位置的真理に関する学び」



講師：アーノルド・フルクテンバウム博士

通訳：中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

救いの 10 の側面

講師：アーノルド・フルクテンバウム博士

通訳：中川健一



ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

目 次

初めに	1
I. 新生 (REGENERATION)	1
A. 言葉の意味	1
B. この言葉の使用例 (パリゲネシア)	1
C. その他の言葉	1
D. 新生の方法	2
E. 新生の本質	3
F. 新生の結果	4
II. 回心 (CONVERSION)	5
A. 言葉の意味	5
B. 回心の種類	5
C. 回心の方法	6
D. 回心に関連した事項	6
E. 回心の例	7
III. 信仰 (FAITH)	7
A. 言葉の意味	7
B. 信仰の種類	7
C. 信仰の本質	8
D. 信仰の保証	8
E. 信仰の特徴	8
IV. 悔い改め (REPENTANCE)	9
A. 言葉の意味	9
B. ヘブル語とギリシア語	9
C. 悔い改めの特徴	10
V. 告白	12
A. 言葉の意味	12
B. 告白の特徴	12
C. 告白に関する聖句	12
VI. 赦し (FORGIVENESS)	13
A. 言葉の意味	13
B. 赦しを表現する言葉	13
C. 赦しに関連する事項	14
VII. 転嫁 (IMPUTATION)	14
A. 言葉の意味	14
B. 3種類の転嫁	14

C. 転嫁の手段	14
VIII. 養子縁組 (ADOPTION)	15
A. 言葉の意味	15
B. 養子縁組のギリシア語	15
C. 養子縁組に関連する事項	15
D. 養子縁組の結果	16
IX. 確証 (ASSURANCE)	16
A. 確証の問題とは	16
B. 確証の原則	17
C. 確証の源	17
D. 確証の見極め方	17
E. 確証に関する聖句	19
X. 栄化 (GLORIFICATION)	19
A. 言葉の意味	19
B. 栄化に関する聖句	20
C. 栄化の本質	20
D. 栄化に関連した事項	20
MEMO	22

初めに

I. 新生 (REGENERATION)

A. 言葉の意味

「新生とは、人の中に新しい命の原則を植え込み、その人の魂を統治する性質を聖いものとする、神の行為である」

- (1) 永遠の命を授ける神の行為
- (2) 上から生まれること
- (3) 生まれ変わること

B. この言葉の使用例 (パリゲネシア)

- (1) マタ 19：29

「そこで、イエスは彼らに言われた。『まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです』」

①千年王国の準備として、「世が改まる」、「新しい世界になる」(新共同訳)。

②イザ 65：17 がこれと同じ内容を預言している。

「見よ。まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する」
この文脈 (17～25 節) では、新天新地ではなく千年王国のこと。

- (2) テト 3：5b

「ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました」

C. その他の言葉

- (1) 生まれ変わり (ボーン・アゲイン)

ヨハ 3：3、7、1 ペテ 1：3、23

- (2) 神によって生まれる

ヨハ 1：13、1 ヨハ 2：29、3：9、4：7、5：1、4、18

- (3) 神の子ども

1 ヨハ 3：1～2

- (4) 新しく造られた者

2 コリ 5 : 17

- (5) 命を与える (to be quickened)、生かされる (to be made alive)

ヨハ 6 : 63、ロマ 8 : 1~10、エペ 2 : 1、5

- (6) 生む (begotten)

ヤコ 1 : 18

D. 新生の方法

以下の 4 つの方法がすべて、同時に働く。

その中には、洗礼は含まれない。

「洗礼による新生」という教理は聖書にはない。

1. 神の御心

新生の源である。

ヨハ 1 : 13、5 : 21、2 コリ 5 : 17~18、ヤコ 1 : 18

2. 聖霊

新生の働きを行うお方である。

ヨハ 3 : 5~6、テト 3 : 5

3. 神のことば

信仰の内容を教える。

新生するためには、何を信じなければならないかを教える。

テト 3 : 5、ロマ 10 : 17、ヤコ 1 : 18、1 ペテ 1 : 23

4. 信仰

聖霊が新しい命をもたらすことを可能にする人間の側の条件

- (1) ヨハ 1 : 12

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」

- (2) ガラ 3 : 26

「あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです」

E. 新生の本質

- (1) 新生が必要な理由は、霊的に死んだ人は応答できないから。
すべての人は霊的に死んだ状態で誕生する。
ヨハ 6：44、65、ロマ 8：8
- (2) 誕生という概念で表現される。
信者は「神から生まれた」(ヨハ 1：13)。
この誕生をもたらすのは聖霊 (ヨハ 3：5～6)。
- (3) 新生の基はメシアの血である。
1 ペテ 1：17～19
- (4) 神の力の現れである。
1 ペテ 1：3 とロマ 1：4
- (5) 本質的な変化が起こる。
永遠の霊的命の原則の付与
信者と不信者の間に巨大な裂け目ができる。
- (6) 突然の変化である。
聖化のプロセスとは区別する。
この変化の過程では、人は受身である。
聖霊により、神の力によって、信じる人にもたらされる突然の変化
- (7) 抵抗できない。
ヨハ 3：8
信じたなら、「新生させないでくれ」とは言えない。
- (8) 神秘である。
ヨハ 3：8
信じた人の永遠の運命が突如変化する。
- (9) 回心とは区別される。
回心は、新生の人間的側面であり、両者は区別する必要がある。
- (10) 信仰と新生とは同時に起こる。

信じた瞬間に新生が起こる。

(11) 有効に働いた恵み (Efficacious grace)

これは新生を生むものではない。

新生と同時に起こる働きである。

F. 新生の結果

(1) 新しい誕生

ヨハ 1 : 13、3 : 7、ヤコ 1 : 18

(2) 新しい性質

霊的事項に敏感、神からの語りかけに敏感な性質

2 コリ 5 : 17、ガラ 6 : 15、エペ 4 : 24

(3) 霊的復活

将来の肉体的復活の基となる。

肉体の復活は携挙の時に起こるが、霊的にはすでに復活している。

ヨハ 5 : 25、ロマ 6 : 13、エペ 2 : 5

(4) 新しい創造

信者の内に根源的な変化が起こったので「新しく造られた者」と呼ばれる。

2 コリ 5 : 17、エペ 2 : 10、4 : 24

(5) 永遠の保証

新生は元に戻すことのできない神の業である。

ピリ 1 : 6

(6) 新しい体験 (ライフスタイル)

1 ヨハ 2 : 29、3 : 9、4 : 7、5 : 14、18

信者はこの「新しい体験」によって誘惑に打ち勝つことができる。

1 ヨハ 5 : 4、16、18

信者は新しい態度を取ることができる。

1 ヨハ 4 : 19、5 : 1~2

信者はあるものを受け継ぐ相続人である。

ロマ 8 : 16~17

II. 回心 (CONVERSION)

A. 言葉の意味

「新生した罪人が、意識的に、信仰と悔い改めをもって神に立ち返るようにさせられる、神の業」

(1) 回心は新生に続くものである。

新生体験の後で起こる、意識的な神への立ち返りである。

(2) 基本的な意味は、「方向転換」である。

ユダヤ人が異邦人になることではない。「converted Jew」

方向転換には、積極的な側面と消極的な側面とがある。

消極的には、罪からの方向転換（悔い改め）

積極的には、神への方向転換（信仰）

メシアの業を理解し、それに同意したこと。

メシアは私たちの罪のために死なれた。

メシアは葬られた。

メシアは復活された。

そういうお方として、メシアに全幅の信頼を置く。

(3) 回心の 3 つの要素

知識

同意

信頼

回心は、罪からの方向転換（悔い改め）と神への方向転換（信仰）である。

使 9：35、11：21、15：19、26：20、1 ペテ 2：25

B. 回心の種類

(1) 国家的回心

ニネベの回心（ヨナ 3：10）

イスラエルの回心（ロマ 11：24～26）

(2) 一時的回心

救いに至る回心ではない。

知識と同意はあるが、信頼がない。

聖書にある例（断定できないが可能性はある）

使 8：9～24、1 テモ 1：19～20、2 テモ 2：18、4：10

(3) 真の回心

知識、同意、信頼がある。

(4) 繰り返される回心

救いを失った者が、再び救われるという意味ではない。

聖化の過程と関係がある。

信仰の後退者の立ち返り

日々の更新

ルカ 22 : 32、黙 2 : 5、16、21～22、3 : 3、19

C. 回心の方法

(1) 回心をもたらすのは神

エレ 13 : 23、ヨハ 1 : 13、ロマ 9 : 16

(2) 実現に至らせる力は神の御心

1 コリ 6 : 9～11、エペ 2 : 3～6

(3) 手段となるのは神のことば

ロマ 10 : 17、1 コリ 3 : 5、ガラ 3 : 2

D. 回心に関連した事項

(1) 回心の造り手は、常に神である。

使 11 : 18、2 テモ 2 : 25

(2) 人は協力せねばならない（罪から離れ、神に立ち返る）。

旧約聖書では、神の業という意味で「回心」という言葉が 15 回出てくる。

ところが、人間の業という意味で 74 回出てくる。

新約聖書では、神の業という意味で「回心」は 2、3 回しか出て来ない。

ところが、人間の業という意味で 26 回出てくる。

イザ 55 : 7、エレ 18 : 11、使 17 : 30

(3) 回心の 3 つの要素

知（視点の変化。ロマ 3 : 20）。

情（御心にそった悲しみ。2 コリ 7 : 9～10）

意（意志、目的の変化。使 2 : 38、ロマ 2 : 4）

(4) 詩 119 : 59~60

「私は、自分の道を顧みて、あなたのさとしのほうへ私の足を向けました。私は急いで、
ためらわずに、あなたの仰せを守りました」

回心の準備として、自らの道と神の道を顧みる (59 節 a)。

みことばが証言するお方 (神) への決定的立ち返り (59 節 b)

回心の証拠は、従順である (60 節)。

E. 回心の例

(1) パウロ 使 9 : 1~28

(2) リディア 使 16 : 13~15

(3) ピリピの看守 使 16 : 19~34

III. 信仰 (FAITH)**A. 言葉の意味**

(1) 信じる内容を理解せねばならない。

次に、知的に知っていることが真理であるとの確信がなければならない。

ルカ 24 : 48、ヨハ 3 : 11、31~33、使 2 : 32、3 : 15、5 : 32、10 : 39~43

(2) その真理は救いをもたらすという信頼がなければならない。

B. 信仰の種類**1. 頭だけの死んだ信仰**

(1) 予防接種的信仰

(2) 歴史的、知的に真理を受容するが、道徳的、靈的応答がない信仰

使 26 : 27~28、ヤコ 2 : 19

2. 一時的な信仰

(1) 福音に感情的に応答するが、それ以上信仰が成長しない。

(2) 信仰が良心から出ているが、信頼からではない。

(3) その人は救われていない。

1 ヨハ 2 : 19

3. 救いに至る信仰

- (1) 聖霊の働きかけにより、メシアによる救いを心から受け入れること
- (2) このような信仰は、永遠の命をもたらす。

4. 生ける信仰

- (1) 信者として、霊的生活を送る信仰
使 26 : 18、ガラ 2 : 20、ヘブ 12 : 1~2、1 ペテ 1 : 5
- (2) 生ける信仰は、救いに至る信仰があるという証拠である。
- (3) 救われた時と同じように、恵みにより、信仰によって生きる必要がある。

5. 奇跡をもたらす信仰

- (1) 神は自分のために奇跡を行ってくださるという確信
- (2) これには、救いに至る信仰が伴う場合とそうでない場合とがある。
マタ 8 : 13、17 : 20、マコ 16 : 17~18、ヨハ 11 : 22、40
- (3) 神は奇跡を行うことができると信じているだけでは、何も保証されない。
- (4) 神に問う前に奇跡を求めてもいいが、神がそれを叶えるとは限らない。
- (5) モーセの例：奇跡を行うという神の約束を信じる信仰
- (6) 奇跡を行うように神を動かす信仰ではない。

C. 信仰の本質

- (1) 知識
ロマ 10 : 14~17
- (2) 確信、同意
- (3) 信頼

D. 信仰の保証

信じれば救われるという保証はどこから来るか。

- (1) すべての人に福音が提供されている。
信じれば救われるという福音が伝えられている。
マタ 11 : 28、28 : 19、使 17 : 30~31

- (2) メシアには救う力がある。
マタ 11 : 28、ヨハ 6 : 37

E. 信仰の特徴

- (1) 信仰は、回心の積極的側面である。

消極的側面は、悔い改め、罪から離れることである。

(2) 信仰は、救いに必要な人間的要因である。

(3) 信仰の源

①神の賜物

エペ 2 : 8、コロ 2 : 12、2 ペテ 1 : 1

②聖霊によって真理を確信すること

ヨハ 16 : 8、1 コリ 2 : 14、1 ヨハ 2 : 20、27

③人間の行為、責任

ロマ 10 : 9、1 コリ 2 : 5、コロ 1 : 23、1 テモ 1 : 5、6 : 11

④神のことばが、信仰の内容を教える。

ヨハ 5 : 47、使 4 : 4、ロマ 10 : 14、17

(4) 信仰の対象は、神と神の啓示の全体

(5) 信仰の内容は、メシアの死、埋葬、復活である。

ヨハ 3 : 15～16、18、36、6 : 29、40、47～51、使 10 : 43、ロマ 3 : 22、1 コリ 15 : 1～4、ガラ 2 : 16

(6) 信仰の 3 つの要素

①知的要素

②感情的要素。同意のこと。

③意志的要素

(7) 信仰と感情とは無関係

IV. 悔い改め (REPENTANCE)

A. 言葉の意味

「罪人の内に起こった意識的变化であり、これによって罪人は罪から方向転換する」

(1) 罪を悲しむこととは違う。

(2) 「心の在り方の変化」である。

B. ヘブル語とギリシア語

1. ヘブル語の用語

- (1) ニカム (nicham) : 悔いる、残念に思う。
創 6 : 6~7、出 32 : 14、士 2 : 18、1 サム 15 : 11
- (2) シュヴ (shuv) : 立ち返る、方向転換する。
申 30 : 10、2 歴 6 : 26

2. ギリシア語の用語

- (1) メタノイア : 後になって理解する。
事後の知識によって心の在り方が変わる事
将来に向けての行為の変化
最初のヘブル語の言葉 (ニカム) に対応する。
- (2) エピスツレフォ : 方向を変える。
第2のヘブル語 (シュヴ) に対応する。
信仰による方向転換
使 15 : 3、26 : 20、1 テサ 1 : 9
- (3) メタメロマイ : 後悔する、自分の行為を悔いる。
信仰の伴わない悔いのこと
マタ 21 : 29、32、27 : 3、ヘブ 7 : 21
イスカリオテのユダについて (27 : 3) : 「後悔し」
ユダは救われていない。

C. 悔い改めの特徴

1. 負の要因

回心の負の要因 : 罪から離れること
使 5 : 31、ヘブ 6 : 1
回心の正の要因 : 信仰により神に立ち返ること

2. 回心における最後の行為である。

3. 新しい関係が始まる。

4. 信仰と同義である。

- (1) 悔い改めとは、啓示された神のことばの真理に対する心の変化。

ルカ 24：46～48、使 11：18、20：21、26：20、ロマ 2：4、2ペテ 3：9

- (2) 福音は、悔い改めの福音である。
- (3) バプテスマのヨハネは、イスラエルに対して悔い改めを説いた。
パリサイ主義ではなく、メシアが義を得る方法である。
マタ 3：2、4：17
- (4) 救われるためには、悔い改め、メシアに関する理解を変える必要がある。
使 2：38、3：19

5. 悔い改めの源

- (1) 神的要因
悔い改めは、神の賜物である。
使 5：31、11：18、2テモ 2：25
- (2) 人的要因
 - ①神のことばが、悔い改めるべき内容を教えてくれる。
ルカ 16：30～31
 - ②福音の伝達
マタ 12：41、ルカ 24：47、使 2：37～38、2テモ 2：24～25
 - ③神が善いお方であることを黙想することは、人を悔い改めに導く。
ロマ 2：4、2ペテ 3：9
 - ④神の訓練（懲らしめ）は、人を悔い改めに導く。
ヘブ 12：10～11、黙 3：19

6. 救いとは区別される

- (1) 1テサ 1：9に、悔い改めと救いの関係が出ている。
- (2) 悔い改めは、信じるという行為の中に含まれている。
- (3) 救いの前に信仰と悔い改めが来る。信仰と悔い改めは不可分のものである。

7. 悔い改めの結果

- (1) 未信者の悔い改めは、救いに至る。
- (2) 信者の悔い改めは、神との関係の回復に至る。
2コリ 7：8～10

8. 悔い改めの3つの要因

- (1) 自分の過去の生活は罪であったとの知的認識
ロマ 1 : 32、2 テモ 2 : 25
- (2) 罪を悲しむ感情（悲しむだけでは悔い改めではない）
2 コリ 7 : 9～10
- (3) 人生の目的を変えようという意志
使 2 : 38、8 : 22、ロマ 2 : 4

V. 告白

A. 言葉の意味

「救いに至る信仰の内容を、言葉に出して言うこと」

- (1) 沈黙の言葉である場合が多い。
- (2) 福音の内容は、言葉を通して理解される。
- (3) それらの言葉を信じたなら、それが告白である。

B. 告白の特徴

- (1) 救いに至る告白とは、公の場で信仰を言い表すことではない。
その前にすでに救われている。
- (2) 告白が救いに至るのは、その告白が信仰の一部になっている場合だけ。
告白とは、信じた内容を言葉にすることである。

C. 告白に関する聖句

1. マタ 10 : 32

「ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます」

- (1) 信仰のあるユダヤ人と、そうでないユダヤ人の区別
イエスをメシアと告白するのが信仰のあるユダヤ人
- (2) ここで告白が救いに至っているのは、それが信仰の一部になっているから。

2. ロマ 10 : 9～11

- (1) ここでは、告白と信仰とは同義語として使われている。

キアスモス (カイアズム) : 交差対句法

- (2) 9 節

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです」
福音の 3 番目の要素の告白 (告白が最初で、信仰が次に続く)

- (3) 10 節

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです」
信仰が最初で、告白が次に続く。

- (4) 11 節

「聖書はこう言っています。『彼に信頼する者は、失望させられることがない』」
信仰だけが出てくる。

VI. 赦し (FORGIVENESS)

A. 言葉の意味

「赦しとは、神がその人の罪を考慮に入れないことである」

B. 赦しを表現する言葉

- (1) 旧約聖書 (英語版)

赦す (forgive) は 41 回。

許す (pardon) は 20 回。

- (2) 新約聖書

アフィエイミ (送り出す、免責する、解き放つ)

英語では「forgive」(赦す) という訳が 58 回。

「remit」(免責) という訳が 11 回。

ロマ 4 : 7

カリソマイ (完全に見過す)

「grace」(恵み) と同じ語幹を持つ。

赦しは神の恵みによって可能となる。

ルカ 7 : 42、2 コリ 2 : 7、10、12 : 13

C. 赦しに関連する事項

- (1) 裁判官は、罪人を赦すことはできない。
罪人が裁判官の前に立ったなら、裁判官はその罪を裁かねばならない。
- (2) 罪人は、義認を必要としている。
裁判官は、罪人か、その代理の者を裁く必要がある。
私たちの場合、イエスが代理人となってくださった。

VII. 転嫁 (IMPUTATION)**A. 言葉の意味**

「他の人に責任を帰する。他の人の勘定に移す」

ピレ 17～18 節（救いに関する聖句ではないが、同じ言葉が使われている）

「ですから、もしあなたが私を親しい友と思うなら、私を迎えるように彼を迎えてやってください。もし彼があなたに対して損害をかけたか、負債を負っているのであれば、その請求は私にしてください」

B. 3 種類の転嫁

- (1) アダムの罪の人類への転嫁
ロマ 5：12～14
- (2) 人類の罪のメシアへの転嫁
イザ 53：1～6 に預言されていた。
成就是、2 コリ 5：21、1 ペテ 24：～25 にある。
- (3) メシアの義の信じる者への転嫁
ロマ 3：21～22、10：4、2 コリ 5：21、ピリ 3：8～9

C. 転嫁の手段

メシアの身代わりの死

ヘブ 9：14、10：14

VIII. 養子縁組 (ADOPTION)

A. 言葉の意味

「成人した際に特権と権威を受け取れる立場に、子どもを置くこと」

ロマ 9：4、ガラ 4：1～5

「贖われた人は神の息子・娘になり、神の家族に約束されたすべての特権を受ける」

ヨハ 1：12

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」

B. 養子縁組のギリシア語

ヒュイオセシア（英語の Adoption）。新約聖書に 5 回登場する。

「息子の位置に置く」という意味。

- (1) イスラエルが神の民となったこと

ロマ 9：4

- (2) 信者が神の家族に加えられること

ロマ 8：15、ガラ 4：5、エペ 1：5

C. 養子縁組に関連する事項

- (1) 養子縁組は、新生の結果である。

- (2) 聖霊を受けることと関係している。

ロマ 8：15～16、ガラ 4：6

- (3) 神が父となってくださる。

三位一体の第一位格であるお方は、イエス・キリストの父であり、信じる者すべての父でもある。ヨハ 20：17

- (4) 3 つの用語

- ① 「主イエス・キリストの父なる神」

ロマ 15：6、2 コリ 11：31、エペ 1：3、コロ 1：3、1 ペテ 1：3

- ② 「父なる神」（子なる神と区別される存在）

ガラ 1：1、エペ 6：23、ピリ 2：11、1 テサ 1：1、2 テサ 1：2、1 テモ 1：2、テト 1：4、1 ペテ 1：2、2 ペテ 1：17、2 ヨハ 3、ユダ 1、黙 1：6

③子なる神を父なる神から区別する用語

ロマ 1 : 7、1 コリ 1 : 3、2 コリ 1 : 2、ガラ 1 : 3、エペ 1 : 2、1 テサ 1 : 3、3 : 11、13、
2 テサ 1 : 1～2、2 : 16

D. 養子縁組の結果

(1) 信者は神の子とされた。

ルカ 11 : 11～13

(2) 父と子の関係に入ったために、神からの訓練を受ける。

ヘブ 12 : 5～11

(3) 大胆に神に近づくことができる。

ヘブ 4 : 14～16

(4) 神の子の似姿に変えられていく。

(5) 信者は相続人、メシアと共同相続人である。

ロマ 8 : 17、ガラ 4 : 7

(6) 信者はメシアの兄弟となる（人としてのメシア）。

ヘブ 2 : 11

(7) 恵みという領域の中に、自由という特権が働いている。

ロマ 8 : 14～15、ガラ 4 : 6～7

IX. 確証 (ASSURANCE)

確証 (assurance) と永遠の保証 (eternal security) とは異なる。

永遠の保証とは、一度救われた人の救いが取り去られることはないということ。

その人は、永遠の保証を信じなくても、これが真理であることは変わらない。

確証とは、自分は救われているという確信のことである。

A. 確証の問題とは

人にとって、自分が救われ、天国に向かっていると確信することは可能なのか。

B. 確証の原則

(1) 救いの本質

- ①救いは神からの無代価の贈り物である。
- ②救いは、神が人のためにしてくださったことで、人ができることではない。
- ③メシアは、十字架の上で救いの業を完成してくださった。

(2) 救いを確信させる経験

2 コリ 13 : 5

(3) 聖書の約束の信頼性を受け入れる。

1 ヨハ 5 : 13

C. 確証の源

(1) 神のことば

聖書がこれは真理であると教えることを信じるなら、確証を持つようになる。

ヨハ 1 : 12、ロマ 10 : 13、1 ヨハ 2 : 7

(2) 信者の行為

救いに至る信仰は、行為の変化をもたらす。

1 ヨハ 2 : 3～5

(3) 聖霊

聖霊が、信者の心に働きかけ、神の子とされていることを教えてください。

1 ヨハ 2 : 27～29、4 : 13

D. 確証の見極め方

14 の見極め方を論じるが、その内の 13 はヨハネの手紙第一から出ている。

ヨハネの手紙第一は、救いの確証をテーマとした手紙である。

(1) 神との交わりを楽しんでいるか。

1 ヨハ 1 : 3～4

(2) 罪に対して敏感か。

1 ヨハ 1 : 5～10

(3) 神の命令に従順か。

1 ヨハ 2 : 3～5

(4) この世に対する姿勢はどうか。

1 ヨハ 2 : 15

(5) イエス・キリストを愛し、主の再臨を待ち望んでいるか。

1 ヨハ 3 : 2～5

(6) 習慣的罪を犯していないか。

1 ヨハ 3 : 4

(7) 他の兄弟たちを愛へと駆り立てているか。

1 ヨハ 3 : 14

(8) 祈りの答えを経験しているか。

1 ヨハ 3 : 22、5 : 15

(9) 心の内に聖霊の証言があるか。

1 ヨハ 3 : 24、4 : 13

(10) 霊的真理と霊的誤りとを見分ける力があるか。

1 ヨハ 4 : 1～6

(11) クリスマン生活の基本的な教理を信じているか。

1 ヨハ 4 : 1

(12) 内に平安があるか。

1 ヨハ 3 : 19～21

(13) 兄弟たちを愛しているか。

1 ヨハ 2 : 7～11、3 : 11～18

(14) それ以外の見極め方

あるものは重複している。

①兄弟たちへの愛

ヨハ 13 : 35

②互いに対する愛（重複しているが、これが重要である）

ヨハ 15：17

③聖霊の証し

ロマ 8：16

④自分が真理の中にいるかを自分で吟味する。

2 コリ 13：5 「自分自身をためし、また吟味しなさい」

1 コリ 11：28（聖餐式の前に）

E. 確証に関する聖句

1. ヨハ 20：31

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである」

2. コロ 2：2

「それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです」

3. 1 テサ 1：5

「なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています」

4. ヘブ 6：17～19

「そこで、神は約束の相続者たちに、ご計画の変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されたのです。それは、変えることのできない二つの事によって、——神は、これらの事がらのゆえに、偽ることができません——前に置かれている望みを捕らえるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けるためです。この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側に入るのです」

X. 栄化 (GLORIFICATION)

A. 言葉の意味

「完全な状態」（未来のこと）

罪はなく、罪を犯す能力もなくなっている。

B. 栄化に関する聖句

ロマ 8：28～30

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多く兄弟たちの中で長子となられるためです。神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました」

C. 栄化の本質

1. 聖である。

完璧に聖であり、罪に束縛されることはない（コロ 1：22）。
罪を犯す能力さえない。

2. つまずくことはない（ピリ 1：10）。

つまずきも、信仰の後退もない。

3. 試され、清い者とされている（ピリ 1：10）。

4. 責められるところがない（1 コリ 1：8）。

5. 非の打ちどころがない（1 テサ 3：13、5：23）。

6. しみや、しわや、傷がない（エペ 5：25～27）。

7. 完全な知識（1 コリ 13：9～12）

「私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります」（12 節）
これは、私たちが全知全能になると教えているのではない。
自分のことを完全に知るようになるということ。

D. 栄化に関連した事項

(1) 肉体の復活とともに、霊肉ともなる栄化が完成する。

ロマ 8：23、1 コリ 15：50～58、2 コリ 4：17、5：1～5、ピリ 3：20～23

- (2) 栄化は信者にとって完全な報いをもたらす。

ロマ 8：31～39

信者が求めたもの、信じたもの、願ったものが、完全実現する。

「神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか」(33 節)

答えは、「誰もいない」である。

- (3) 今の世（被造の世界）は、取り除かれる。

ロマ 8：20～22

- (4) 聖霊が信者の栄化の保証である。

2 コリ 1：22、5：5、エペ 1：14

家を買う際の手付金と同じである。

- (5) 栄化は、御国を受け継ぐ時に成就する。

エペ 1：13～14、1 ペテ 1：3～5

MEMO

33 の事項： 位置的真理についての学び

講師：アーノルド・フルクテンバウム博士

通訳：中川健一



ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

目 次

初めに	1
A. 言葉の意味	1
B. 位置と実践の区別	1
C. この新しい位置に入る方法	1
D. 位置的真理に関する 2 つの鍵になる真理	1
E. サタンに対する防御	2
F. その他の関連事項	3
I. 贖い (REDEMPTION)	4
II. 和解 (RECONCILIATION)	4
III. なだめ (PROPITIATION)	5
IV. 赦し (FORGIVENESS)	5
V. 義認 (JUSTIFICATION)	5
VI. 栄化 (GLORIFICATION)	6
VII. 解放 (DELIVERANCE)	6
VIII. 割礼 (CIRCUMCISION)	6
IX. 神に受け入れられる (BEING ACCEPTABLE TO GOD)	6
X. 御霊の初穂 (THE FIRSTFRUITS OF THE HOLY SPIRIT)	7
XI. 神の永遠の計画の中に (IN THE ETERNAL PLAN OF GOD)	7
XII. 岩 (メシア) の上に置かれている (BASED ON THE ROCK: THE MESSIAH)	8
XIII. 近い者とされた (MADE NIGH)	8
XIV. 聖なる祭司の一員とされた (MEMBERS OF A HOLY ROYAL PRIESTHOOD)	8
XV. 神の国に移された (TRANSFERRED INTO GOD'S KINGDOM)	9
XVI. 選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民 (A CHOSEN GENERATION: A HOLY NAION: A PECULIAR PEOPLE)	9
XVII. 天国の市民 (CITIZENS OF HEAVEN)	10
XVIII. 神の家族の一員 (IN THE FAMILY OF GOD)	10
XIX. 養子縁組 (ADOPTION)	10
XX. 神の子 (CHILDREN OF GOD)	10
XXI. 聖徒の交わりの一部 (PART OF THE FELLOWSHIP OF THE SAINTS)	11
XXII. 主にある光 (LIGHT IN THE LORD)	11
XXIII. 天的な関連性 (HEAVENLY ASSOCIATIONS)	12
XXIV. 満ち満ちている (COMPLETION)	13
XXV. すべての霊的祝福を所有している (IN POSSESSION OF EVERY SPIRITUAL BLESSING)	13
XXVI. 父なる神から子なる神への贈り物 (A GIFT FROM GOD THE FATHER TO GOD THE SON)	13
XXVII. メシアの受け継ぐ遺産 (MESSIAH'S INHERITANCE)	13

XXVIII. 相続人 (HEIRS)	14
XXIX. 律法からの解放 (FREED FROM THE LAW)	14
XXX. 古き人が裁かれ新しい歩みが始まった (THE JUDGMENT OF THE OLD MAN UNTO A NEW WALK)	14
XXXI. 父、子、聖霊に結ばれた (UNITED TO THE FATHER AND TO THE SON AND TO THE HOLY SPIRIT)	14
XXXII. 神に近づくこと (ACCESS TO GOD)	15
XXXIII. 神の大いなる守りの中にある (WITHIN THE MUCH MORE CARE OF GOD)	16
結論	17

初めに

救われた瞬間に起こる 33 の事項
位置的真理（キリストの内にあって）
メシア（キリスト）との一体化

A. 言葉の意味

パウロ書簡の中に頻繁に登場する表現
「in Christ, in Jesus, in Jesus Christ, in Christ Jesus, in Him, in whom」
神学的専門用語
信者は、メシアとの一体化によって新しい位置（立場、身分）に置かれている。

B. 位置と実践の区別

位置とは、神が信者をどう見ておられるかを示す。
33 の事項がそれである。
信者は、33 の事項に合致するような生活を志す。
聖霊が聖化の業を為してくださる。

C. この新しい位置に入る方法**(1) 聖霊のバプテスマ**

「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです」(1 コリ 12:13)

(2) 聖霊のバプテスマは、使徒 2 章以降の聖霊の働きである。**(3) 携挙以降は、聖霊のこの働きはなくなる。****D. 位置的真理に関する 2 つの鍵になる真理****1. 位置的真理の源**

神の恵み

「それは、神がその愛する方にあって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです」(エペ 1:6)

「その愛する方にあって」とは、「メシアにあって」という意味である。

「それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかに示しになるためでした」（エペ2：7）

「キリスト・イエスにおいて」私たちはすぐれて豊かな御恵みを受ける。

2. 信者の権威の基

霊的生活における信者の権威は、位置的真理から来る。

「また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように」（エペ1：18～19）

軍曹、大尉、大佐、大將、それぞれがその階級にふさわしい権威を持つ。

軍曹から大尉に昇級したことを知らなければ、軍曹のように行動する。

信者は、メシアにある自らの位置を学ぶ必要がある。

E. サタンに対する防御

サタンに対する最大の防御策は、位置的真理である。

(1) コロ2：14～15

「いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書が無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました」

信者はキリストとともに十字架に釘づけにされた。

それゆえ、信者はサタンに勝利した。

キリストにある位置を知ることが最大の防御となる。

(2) ヘブ2：14～15

「そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした」

キリストは死と復活により、サタンに勝利された。

信者もキリストの内にあってサタンに勝利した。

(3) エペ6：10～18

「終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい」

3度にわたって、サタンに立ち向かえと勧められている。

その方法は、「主にあって」である。

位置的真理を知ることが最大の武器となる。

F. その他の関連事項

- (1) 信者はメシアとともに十字架に付けられた。ガラ 2：20
- (2) 信者はメシアとともに死んだ。コロ 2：20
- (3) 信者はメシアとともに葬られた。ロマ 6：4
- (4) 信者はメシアとともに生かされた。エペ 2：5
- (5) 信者はメシアとともに復活した。コロ 3：1
- (6) 信者はメシアとともに苦しむ。ロマ 8：17
- (7) 信者はメシアとともに栄化される。ロマ 8：17
- (8) 信者はメシアとともに共同相続人となる。ロマ 8：17

I. 贖い (REDEMPTION)

(1) 聖句

ロマ 3：24、1 コリ 1：30、エペ 1：7、コロ 1：14

(2) 贖いの代価はメシアの血。

贖いとは、「買い戻す」ことである。

「罪の奴隷市場からの買い戻し」

1 コリ 6：19～20、1 ペテ 1：18～19

(3) 3 つのギリシア語

①アゴラゾウ 「買う」「罪の代価を支払う」

2 ペテ 2：1、黙 5：9

②エクシアゴラゾウ 「奴隷市場から買い戻す」

ガラ 3：13、4：5

③ルツルオウ 「解放し自由にする」

マタ 20：28、1 テモ 2：6、テト 2：14

(4) 上記の 3 つのギリシア語を統合すると、以下のような定義が生まれる。

「贖いとは、メシアの血という代価を払って人を買戻すことである。その人は、罪の奴隷市場から取り除かれた。それから、主に仕えることができるようになるために、自由の身とされた」

II. 和解 (RECONCILIATION)

(1) 神と敵対関係にあるこの世の位置が、メシアの死によって変化した。

(2) すべての人に救いの可能性が生まれた。

ロマ 5：10～11、2 コリ 5：18～19、コロ 1：20～22

(3) 加害者である人類が、被害者である神との和解へと戻された。

III. なだめ (PROPITIATION)

- (1) 神の怒りが、メシアの死によって静められた。

「というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです」(ロマ 1:18)

- (2) 神は信者に対してはもはや怒ってはおられない。

ロマ 3:25、1 ヨハ 2:2、4:10

IV. 赦し (FORGIVENESS)

- (1) 信者の罪は、過去、現在、未来にわたってすべて赦された。

エペ 1:7、コロ 1:14、2:13

- (2) 信者が救いを失うことはあり得ない。

- (3) この真理の適用

「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい」(エペ 4:32)

「キリストにおいて」

主にある兄弟姉妹を赦す。

「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい」(コロ 3:13)

V. 義認 (JUSTIFICATION)

- (1) 義と宣言されること

ロマ 3:24、5:19、8:30

- (2) 信仰を通してメシアの義を付与されること

VI. 栄化 (GLORIFICATION)

- (1) メシアの栄光の究極的な付与が保証されている。
ロマ 8：18、30、9：23、コロ 3：4、1 ヨハ 3：2

VII. 解放 (DELIVERANCE)

- (1) 暗やみの力からの解放
使 26：18、エペ 2：1～2、コロ 1：13、ヘブ 2：14～15
- (2) 信者はサタンに仕えるどんな義務もない。

VIII. 割礼 (CIRCUMCISION)

- (1) 肉の割礼ではなく、心の割礼である。
コロ 2：11
- (2) 適用は、肉の行いを脱ぎ捨てて、主の前を正しく歩むこと。

IX. 神に受け入れられる (BEING ACCEPTABLE TO GOD)

信者は神に受け入れられる存在となった。
エペ 1：6、1 ペテ 2：5

- (1) 信者は、メシアの義の転嫁によって義とされた。
ロマ 5：11～21、1 コリ 1：30、2 コリ 5：21
- (2) 信者は位置的に聖なる者とされた。
すべての信者は「聖徒」と呼ばれる。
1 コリ 1：2、30、6：11
- (3) 信者はすでに完成されたと見なされている。

ヘブ 10：14

- (4) 信者は、裁きを受けることがなく、神に受け入れられる者とされた。

ヨハ 3：18、5：24、ロマ 8：1

- (5) 信者は、「資格」を与えられた。

コロ 1：12

X. 御霊の初穂 (THE FIRSTFRUITS OF THE HOLY SPIRIT)

信者は、御霊の初穂を受けている。ロマ 8：23

- (1) 信者は、新生した。

ヨハ 3：5～6、テト 3：5

- (2) 信者は、聖霊のバプテスマによってメシアのからだの一員となった。

ロマ 6：1～10、1 コリ 12：13

- (3) 信者には聖霊の内住がある。信者は、聖霊の宮である。

ロマ 5：5、8：9、1 コリ 3：16、6：19、ガラ 4:6、2 テモ 1：14、1 ヨハ 2：27、3：24

- (4) 信者は、聖霊の証印を押されている。永遠の保証をいただいている。

2 コリ 1：22、エペ 1：3～14、4：30

- (5) 信者は、聖霊に満たされている。奉仕のための力。

エペ 5：18

XI. 神の永遠の計画の中に (IN THE ETERNAL PLAN OF GOD)

信者は、神の永遠の計画の中におり、その一部である。

2 テモ 1：9

- (1) あらかじめ知られていた (foreknowledge of God)。

ロマ 8：29、エペ 1：5、11、12、1 ペテ 1：12

- (2) 救われるように予定されていた（predestined by God）。
ヨハ 6：65、ロマ 8：29～30
- (3) 神によって選ばれていた（the elect of God）。
ロマ 8：33、コロ 3：12、1 テサ 1：4、テト 1：1、1 ペテ 1：1～2
- (4) 神によって選ばれていた（chosen by God）。
エペ 1：4、2 テサ 2：13
- (5) 救いに召されている（called by God）
ロマ 8：30、9：24、1 テサ 5：24、2 テサ 2：14、2 テモ 1：9、ヘブ 3：1

XII. 岩（メシア）の上に置かれている（BASED ON THE ROCK: THE MESSIAH）

- (1) 信者は、砂の上ではなく、岩の上に信仰生活を建てる。
マタ 7：24～27、1 コリ 3：9～15、エペ 2：20～22、1 ペテ 2：4～6

XIII. 近い者とされた（MADE NIGH）

- (1) 異邦人信者は、ユダヤ人の霊的祝福に与るようになった。
エペ 2：13
- (2) 適用
「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人
たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい」（ヤコ 4：8）

XIV. 聖なる祭司の一員とされた（MEMBERS OF A HOLY ROYAL PRIESTHOOD）

- (1) 特にユダヤ人に関すること。万人祭司の根拠
1 ペテ 2：5、9
- (2) 異邦人信者に関しても言える。
黙 1：5～6、5：9～10

(3) 適用

① ロマ 12：1～2

「聖い、生きた供え物」として自分自身を捧げる。

② ピリ 4：18

「私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です」

③ 2 テモ 4：6

「私は今や注ぎの供え物となります。私が世を去る時はすでに来ました」

④ ヘブ 13：15～16

「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。善を行うことと、持ち物を人に分けることとを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです」

XV. 神の国に移された (TRANSFERRED INTO GOD'S KINGDOM)

暗やみの国から神の国へ 2 ペテ 1：11

(1) 信者は、暗やみの力から解放された。

コロ 1：13

(2) それゆえ信者は、神の国の市民にふさわしい歩みをする。

1 テサ 2：12

XVI. 選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民 (A CHOSEN GENERATION: A HOLY NAION: A PECULIAR PEOPLE)

(1) ペテロの手紙は、ユダヤ人信者に宛てられたものである。

1 ペテ 2：9

(2) 教会は、「選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民」ではない。

ユダヤ民族は、全体としては出 19 章にある召命に応えなかった。

ユダヤ人信者は、イエスをメシアと信じた。

彼らこそ、「選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民」である。

(3) 適用

この地位が与えられている理由は、良いわざをさせるためである。

テト 2：14

XVII. 天国の市民 (CITIZENS OF HEAVEN)

(1) 信者の市民権は、天国にある。

ルカ 10：20、2 コリ 5：1～2、エペ 2：19、ピリ 3：20、ヘブ 12：22～24、1 ペテ 2：11～12

(2) 適用

信者はすべて、天国の国籍を持つ「同国人」である。

XVIII. 神の家族の一員 (IN THE FAMILY OF GOD)

(1) 信者は、神の家族の一員、神の建物の一部である。

1 コリ 3：9、ガラ 6：10、エペ 2：19～20、1 ペテ 2：5

XIX. 養子縁組 (ADOPTION)

(1) 信者は、神の子として養子に迎えられた。

ロマ 8：15、23、ガラ 4：5、エペ 1：4～5

(2) 実子の場合と違うのは、養子は愛の対象として選ばれているということ。

XX. 神の子 (CHILDREN OF GOD)

養子縁組の結果、神の子とされた。

ヨハ 1：12、ロマ 8：16、1 ヨハ 3：1～2

- (1) 信者は、神によって生まれた。
1 ヨハ 5：1、1 ペテ 1：23
- (2) 信者は、霊的に生ける者となった。
2 コリ 5：14～15、エペ 2：5、コロ 2：13
- (3) 信者は、今や神の子である。
ユダヤ的に言えば、「sons」とは「followers」と同じ意味である。
「ブナイ・ブリット（契約の子）」は「契約に従う者」である。
つまり、信者は神に従う者である。
ロマ 8：14、2 コリ 6：18、ガラ 3：26、4：6～7、1 ヨハ 3：2
- (4) 信者は、新しく創造された者である。
2 コリ 5：17、ガラ 6：15、エペ 2：10、4：24、コロ 3：10

XXI. 聖徒の交わりの一部 (PART OF THE FELLOWSHIP OF THE SAINTS)

- (1) すべての信者は、聖徒の交わりの一部である。
ヨハ 17：11、21～23、1 ヨハ 1：3、7
- (2) 適用
信者の一致の基礎である。

XXII. 主にある光 (LIGHT IN THE LORD)

- (1) 信者は、世の光であるだけでなく、主にある光である。
エペ 5：8
行いにおいても、光の中を歩む必要がある。
- (2) 適用
「しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていきましょう。眠る者は夜眠り、酔

う者は夜酔うからです。しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶととしてかぶって、慎み深くしていきましょう。神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです」(1 テサ 5：4～9)

- ①信者は光の子ども、昼の子どもである。
- ②「主の日」(大患難時代)は、神の怒りの日、暗やみの日。
- ③信者は、大患難時代を通過しない。

XXIII. 天的な関連性 (HEAVENLY ASSOCIATIONS)

- (1) 人生においてメシアがパートナーとなってくださる。
ガラ 2：20、コロ 3：3～4、1 ヨハ 5：11～12
- (2) 信者は、置かれる位置に関して、メシアのパートナーとなる。
エペ 2：6、コロ 3：1～3
- (3) 信者は、奉仕においてメシアのパートナーとなり、僕としてともに仕える。
ヨハ 17：18、20：21
- (4) 信者は、苦しむことにおいてメシアのパートナーとなる。
苦難は靈性の欠如ではなく、真の靈性の証明であることが多い。
ロマ 8：17、2 コリ 1：5、ピリ 1：29、3：10、2 テモ 2：12
- (5) 信者は、祈りにおいてメシアのパートナーとなる。
ヨハ 14：12～14、16：23～24、1 ヨハ 5：14～15
これが、イエスの御名によって祈る必要がある理由である。
- (6) 信者は、結婚に関してメシアのパートナーとなる。
メシアは花婿であり、信者は花嫁である。
2 コリ 11：2、エペ 5：25～27
- (7) 信者は、主の再臨に関してメシアのパートナーとなる。
テト 2：13、ヘブ 9：28

XXIV. 満ち満ちている (COMPLETION)

- (1) 信者は、メシアにあって満ち満ちている。
コロ 2 : 10
- (2) 行為においては欠けがあっても、位置的真理によれば満ち満ちている。

XXV. すべての霊的祝福を所有している (IN POSSESSION OF EVERY SPIRITUAL BLESSING)

- (1) 信者は、すでにすべての霊的祝福を持っている。
- (2) それらの霊的祝福をどのように、いつ、味わうか、また、それらの霊的祝福をいつ適用し、いつ適用しないか、それが課題である。
1 コリ 3 : 23、エペ 1 : 3

XXVI. 父なる神から子なる神への贈り物 (A GIFT FROM GOD THE FATHER TO GOD THE SON)

- (1) 信者は、父なる神から子なる神への贈り物である。
ヨハ 6 : 37~40、17 : 2、6、9、24
- (2) 適用
永遠の保証

XXVII. メシアの受け継ぐ遺産 (MESSIAH'S INHERITANCE)

- (1) 信者は、メシアの受け継ぐ遺産である。
エペ 1 : 18
「聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか」
「what the riches of the glory of his inheritance in the saints,」

XXVIII. 相続人 (HEIRS)

- (1) 信者は、メシアと共同相続人である。

ロマ 8 : 17、ガラ 4 : 7、エペ 1 : 11、14、コロ 1 : 12、3 : 24、テト 3 : 7、ヘブ 9 : 15、1
ペテ 1 : 4

- (2) 復活の体とメシア的王国での地位

XXIX. 律法からの解放 (FREED FROM THE LAW)

- (1) 信者は律法から自由になっている。

特にユダヤ人信者についてこれと言える。

ロマ 6 : 14、10 : 4、2 コリ 3 : 2~11、ガラ 3 : 19、エペ 2 : 11~15、ヘブ 7 : 11~12

XXX. 古き人が裁かれ新しい歩みが始まった (THE JUDGMENT OF THE OLD MAN UNTO A NEW WALK)

- (1) 信者の古い性質（罪の性質）が裁かれた。

信者は新しい歩みをする事が可能になり、そうするように命じられている。

- (2) 適用

信者は、新しい命を生きるための力が与えられている。

ロマ 6 : 1~11、ガラ 2 : 20

XXXI. 父、子、聖霊に結ばれた (UNITED TO THE FATHER AND TO THE SON AND TO THE HOLY SPIRIT)

信者は、父、子、聖霊に結ばれた。

使 17 : 28、2 コリ 6 : 16

- (1) 信者は父なる神の内にある。

ヨハ 17 : 21、1 テサ 1 : 1、2 テサ 1 : 1

- (2) 父なる神は信者の内におられる。
ヨハ 14：23、2 コリ 5：17
- (3) 信者は子なる神の内にある。
ヨハ 14：20、17：21、ロマ 8：1、2 コリ 5：17
- (4) 子なる神は信者の内におられる。
ヨハ 14：20、23、コロ 1：27
- (5) 信者は聖霊なる神の内にある。
ロマ 8：9、エペ 2：22
- (6) 聖霊なる神は信者の内におられる。
ヨハ 14：16～17、ロマ 8：9、11、1 コリ 2：12、3：16、6：19、2 テモ 1：14

XXXII. 神に近づくこと (ACCESS TO GOD)

- (1) 信者は神の恵みに近づくことができる。
ロマ 5：2
ヘブ 4：14～16
信者がつまづくのは、神の恵みを十分に活用していないから。
- (2) 信者は父なる神に近づくことができる。
エペ 2：18
- (3) 神に近づく祝福が、繰り返し保証されている。
エペ 3：12、ヘブ 4：16、10：19、22
- (4) この祝福によって、神との交わりに導かれる。
1 コリ 1：9、1 ヨハ 1：3

XXXIII. 神の大いなる守りの中にある (WITHIN THE MUCH MORE CARE OF GOD)

信者は神の大いなる守りの中にある。

ルカ 12：24

- (1) 信者は、神の愛の対象である。

ヨハ 17：23、ロマ 5：8、8：35～39、エペ 2：4、5：2、2 テサ 2：16、1 ヨハ 3：1、16、4：10

- (2) 信者は、神の恵みの対象である。

- ①救いに関して

ヨハ 5：24、6：27、39、40、47、エペ 2：7～9、1 ヨハ 5：11～13

- ②守りに関して

ロマ 5：2、ピリ 1：6

- ③奉仕に関して

ヨハ 17：18、エペ 4：7

- ④教えに関して

テト 2：11～13

- (3) 信者は、神の力の対象である。

神の力は、信者を通して働くことが多い。

エペ 1：19

- (4) 信者は、神の忠実さの対象である。

1 コリ 1：9、10：13、ピリ 1：6、1 テサ 5：24、2 テサ 3：3、ヘブ 13：5

- (5) 信者は、神の平和の対象である。

信者の心の中には神の平和が宿っている。

ヨハ 14：27、16：33、ロマ 5：1、ピリ 4：7、コロ 3：15

- (6) 信者は、神の慰めと励ましの対象である。

2 コリ 1：3～4、7：6、2 テサ 2：16～17

- (7) 信者は、神の執りなしの対象である。

ロマ 8：27、34、1 テモ 2：5、ヘブ 7：25、1 ヨハ 2：1

結論

救われた瞬間に、信者にこれらの 33 の事項が起こる。

過程ではなく、瞬時に起こる。

「キリストの内ある」という位置的真理を発見する必要がある。

これが、信者の権威の発見につながる。

これが、霊的戦いにおける最善の防御法である。

信者の戦いには、3 種類ある。

肉に対するもの、この世に対するもの、サタンと悪霊に対するもの

サタンと悪霊に対する戦いにおいては、位置的真理を理解し、それを適用する。

自分自身の力や義に頼ってはならない。

フルクテンバウム・セミナーDVD／CD

2011年『聖書が教える救いとは』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

「救いの10の側面」 「33の事項：位置的真理に関する学び」

2010年『天使論、サタン論、悪霊論』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

2009年『終末論とイスラエル』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

「ロマ書 9 章～11 章の研究」 「ロマ書とユダヤ人」

2008年『神の人類救済プログラム』 CD 8 枚組

1. ディスペンセーションとは何か 2. ディスペンセーションの種類 3. 契約神学（置換神学の主流）
4. 解釈学 5. 救済論 6. 教会論 7. 終末論

2007年『三位一体』 CD 4 枚組

イントロダクション 1. 神の位格の複数性 2. 神の位格の単一性 3. 三位一体の神 4. 結論

2007年『旧約聖書におけるメシア預言』 CD 4 枚組

イントロダクション 1. 律法 2. 預言書

2006年『イスラエル学』 CD 8 枚組

1. 過去のイスラエル 2. 現在のイスラエル 3. 将来のイスラエル 4. その他の関連事項

2005年『ユダヤ的視点から見たメシアの生涯』 CD 12枚組

1. その誕生と成長過程 2. イエスの教えとパリサイ人との葛藤 3. メシアの裁判 4. メシアの死
5. 復活と昇天

2003年『ヨハネの黙示録』 CD 6 枚組

1. ヨハネが見たこと 2. 今ある事 3. この後に起こること 結論

2002年『聖書の八つの契約』 CD 9 枚組

- はじめに 1. エデン契約 2. アダム契約 3. ノア契約 4. アブラハム契約 5. モーセ契約
6. パレスチナ契約 7. ダビデ契約 8. 新しい契約 結論

2001年『イスラエルの祭りに隠されたイエス・キリスト』 CD 10枚組

1. 過越の祭り 2. 種を入れないパンの祭り 3. 初穂の祭り 4. 七週の祭り(ペンテコステ)
5. 春の祭りと秋の祭りの間の4か月 6. ラッパの祭り 7. 贖罪の日 8. 仮庵の祭り



無断複製・転載を禁じます

2011 年 4 月（大阪）、5 月（東京）開催